

愛知県豊田市での高齢者公共交通乗り放題体験による意識・行動変容 -ナラティブ・アプローチを用いて-

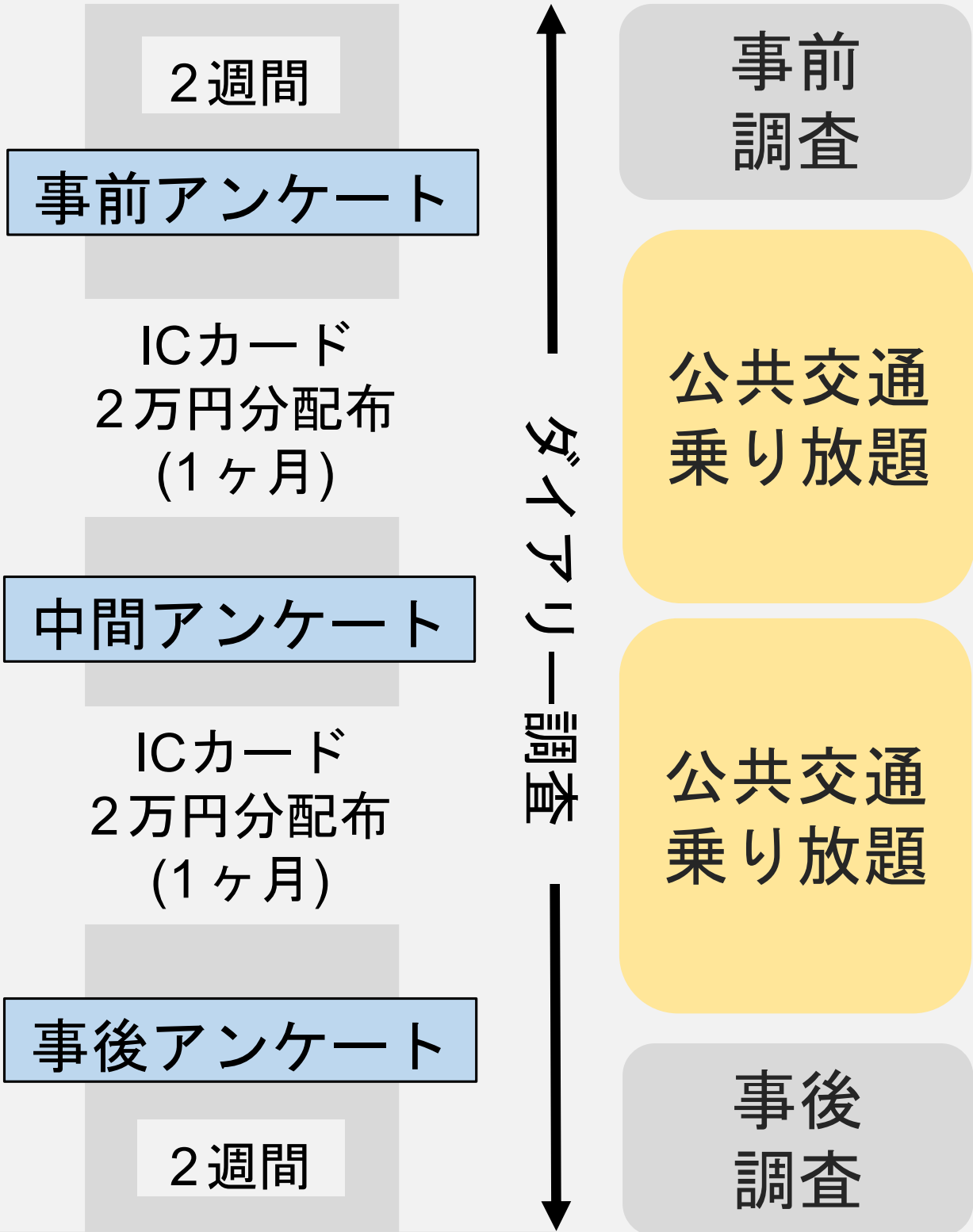
○東京理科大学大学院 高橋幸之介 / 北海学園大学 鈴木雄 / 豊田都市交通研究所 山崎基浩
名古屋大学 早内玄 / 大阪工業大学 西堀泰英 / 東京理科大学 寺部慎太郎・柳沼秀樹

研究概要

愛知県豊田市を事例に2ヶ月間の鉄道・バス・タクシーの公共交通乗り放題プログラムを実施

- 乗りに放題による外出・消費行動や健康指標の変化、地域交通に対する意識変容を把握することが目的
- 「ダイアリー調査票」や各種アンケート調査を用い、乗り放題実施前後の意識・行動変容を把握

実験内容	2万円/1ヶ月×2ヶ月間の公共交通乗り放題
実験対象地域	愛知県豊田市挙母地区
モニター対象者	市内在住の60代～70代の男女20名
乗り放題とした交通手段	市内の鉄道・バス・タクシー



ダイアリー調査票

記入日 月 日 (必ず記入)

※外出がなかった日は、記入の必要はありません。

1. 本日の外出の出発時刻をお答えください。
午前・午後 時 分 (外出がなかった場合、記入は不要です)

2. 以下の表にお答えください。回答方法は別紙の記載例をご覧ください。

○移動目的を以下の欄からお選びください。
※当てはまるものがない場合は、回答欄に外出目的を簡単に記入ください。

○移動手段を以下の欄から当てはまるもの全てをお選びください。
※当てはまるものがない場合は、回答欄に移動手段を簡単に記入ください。

スタート	行った場所	目的	移動手段	消費金額 ※交通費除く	到着時刻	会話の有無
自宅						
1番目				円	午前 午後 時 分	有・無
6番目				円	午前 午後 時 分	
ゴール						
帰宅時						

3. 公共交通機関を使った場合は交通費をお答えください。※定期代は除く
豊田市内：合計 円 豊田市外：合計 円

4. 本日の気分について直感でお答えください。(1つだけに○)

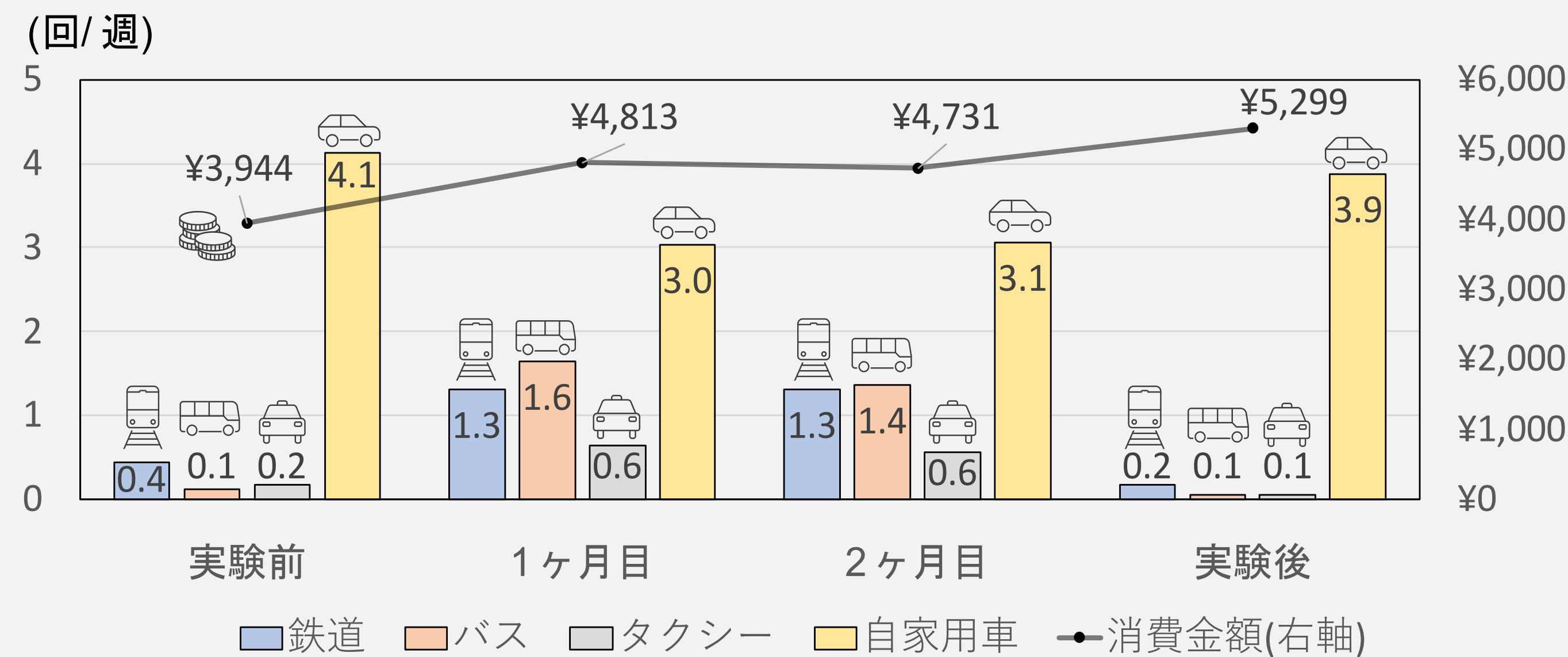
幸せを感じる ← (笑顔アイコン) (普通アイコン) (悲しいアイコン) → 幸せを感じない

ご回答ありがとうございました。

結果

乗り放題期間中は自家用車の利用頻度が減少

▶ 外出機会が増加する人・会話頻度が増加する人が確認された



	IC利用額	外出頻度	会話頻度	鉄道頻度	バス頻度	タクシー頻度	自家用車頻度	トリップ数	支出金額
男性70代：Mさん	40,000円	変化なし*	増加	増加	増加	増加	やや減少	変化なし	増加
男性60代：Sさん	40,000円	変化なし*	変化なし	増加	増加	変化なし	減少	増加	やや増加
女性60代：Tさん	38,910円	増加	やや増加	増加	増加	変化なし	減少	増加	変化なし
男性60代：Gさん	35,500円	変化なし*	増加	変化なし	変化なし	増加	やや減少	増加	増加
男性60代：Eさん	31,800円	変化なし*	変化なし	変化なし	増加	変化なし	やや減少*	増加	増加
男性70代：Qさん	31,130円	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし	増加	減少	変化なし	変化なし
女性70代：Jさん	24,600円	変化なし*	増加	やや増加	増加	変化なし	返納	変化なし	変化なし
男性60代：Cさん	17,100円	増加	やや増加	変化なし	やや増加	やや増加	やや減少	変化なし	増加
男性60代：Bさん	10,110円	変化なし*	変化なし	増加	変化なし	やや増加	やや減少	変化なし	変化なし

*...元々多かった(少なかった)ことを表している

ナラティブ×行動変容



夫婦で自家用車で外出する場合、どちらかが飲酒ができないが、**タクシーで行くことができたので、外食の機会が増加した。** タクシーアプリGOは非常に利便性が高いことがわかった。豊田市発着便のバスが多く、目的地によってはバス停までかなり歩くことになる。内環状、外環状を回る路線などがあると最寄りのバス停から乗り、別路線に乗り換えが出来ると思うと利用しやすくなると思う。

➡ 外食行動に変容が起きた。また、市内の公共交通に対する課題点を把握した。

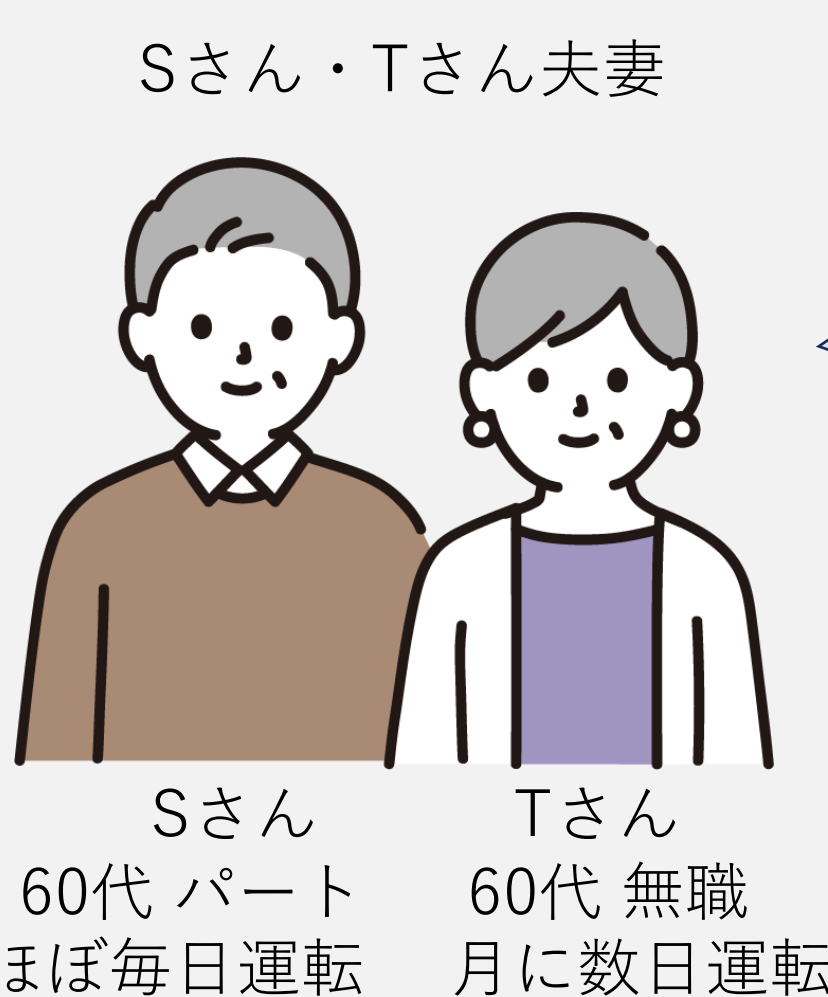


(自分自身の)豊田市内での活動範囲が案外狭いものだと思います。それを改めて気付かされたことでしょうか。タクシーに乗ってみたのですが、目的や確固とした理由もなく無料だという理由で乗る気にはなれませんでした。**バスのダイヤ等どれだけバスの利便性があるのか体験してみるのもよかったです。**

➡ 現職であり市外への通勤のため、なかなか試すことはなかったが、**市内交通機関のルートや運行時間等改めて調べることができ楽しかった。**



➡ 乗り放題をあまり体験しなかった方も、**自身の交通行動や市内の公共交通を見直すきっかけに。**



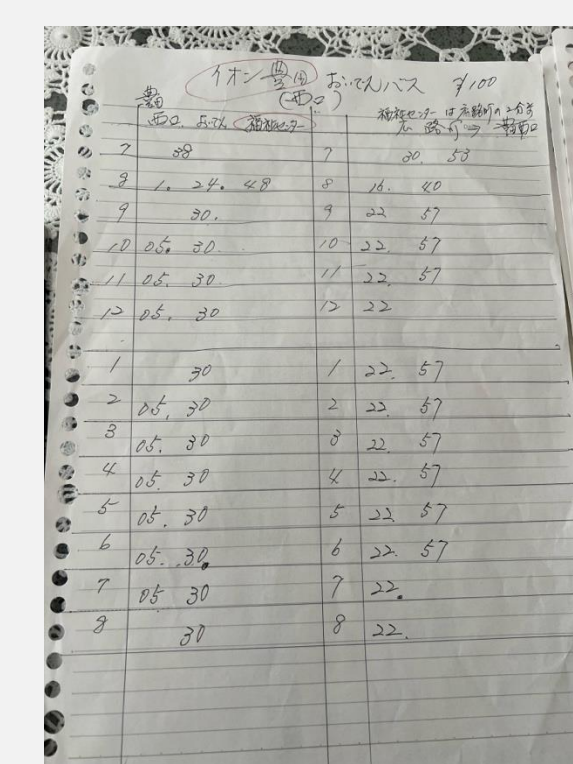
コロナ禍で長く行けなかった温泉に行ったりやなに行ったり栗拾いをしたり今回のモニターで色々な体験をさせていただきました。荒い運転のバスの運転手さんや気さくな運転手さん、人それぞれだと感じました。色々な体験、たくさんの人との出会い、どれもこれも私にとって大切な思い出になりました。**これ(乗り放題)が終わっても夫婦でバス旅続けたいと思いました。**

➡ 乗り放題終了後の訪問では「車を1台処分することも検討している」という趣旨の発言もあった。



バスの本数が少なく不満に思っていたのですが、平日乗って、乗客が私一人とか、乗車人数の少なさに驚き、皆さんは自家用車利用が多いんでしょうね。**十分に車窓を楽しみました。**公共交通の運転手には改めて頭が下がります。

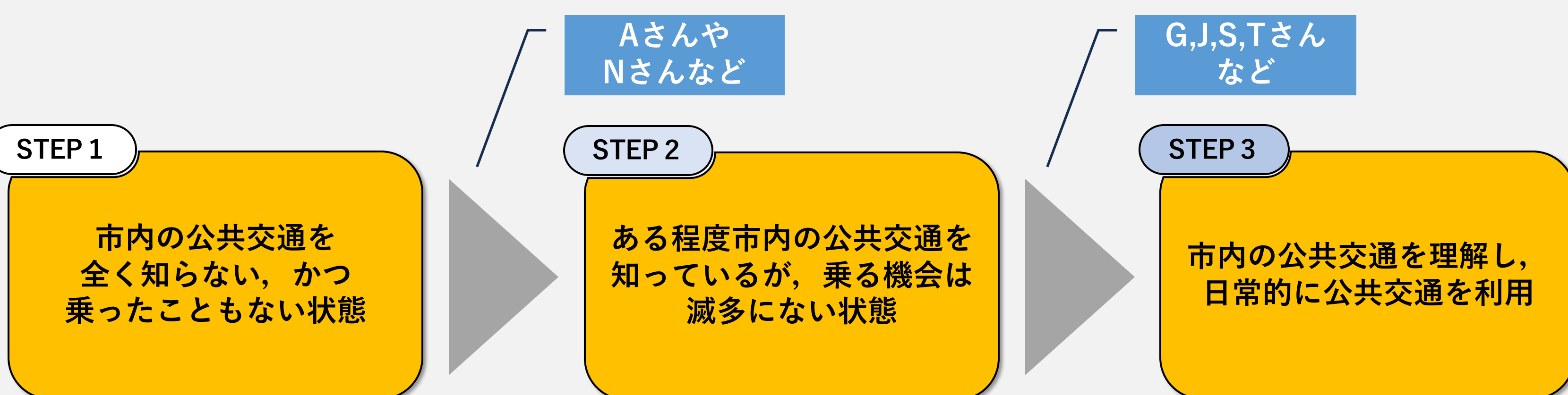
➡ 自ら時刻表を調べ、ルーズリーフに書き写すなど、非常に乗り放題に対して積極的であった。



まとめ

モビリティ・マネジメントとしての公共交通乗り放題体験

▶ 行動変容プロセスによる解釈



乗り放題体験を通して多くのモニターの方が市内の公共交通に対して理解を深めた。

交通との付き合い方を見直すきっかけづくりとして乗り放題体験が機能した